

いの流水俳壇

「当季雑詠」

間 浩太選

大災害花ひそと咲きひそと散る

刈谷 志津

(評)東日本大震災は、すべての人に自粛の気持ち湧き、観光地や温泉などの行楽地は宿泊客のキャンセルが多く、旅行する人も激減して、大変困っていると報道されています。桜の名所も訪れる人は、大きく減少し、花見をする人も、なくなつたこととです。桜が開花の時期は、雪洞を設置し、照明も点灯して、花見客も多かったのですが、今年は、雪洞を設ける箇所も少なく、開花日や桜前線の報道も少なく、この句のとおり花見をしないうちに、気がつけば、散つていたと、いうような、昔から今年のような桜への対応ははじめてのことと感ぜます。

この句の「ひそと咲きひそと散る」は、東日本大震災で全国の花「花」といえば俳句では桜のこと)の状況を、言い表していると思います。ただ、自粛自粛では、日本経済が畏縮して復興がかえって遅れると言われ、最近では人々は、大いに支出するようにと言われています。

津波あと荒野に残る梅のはな

野田 京子

(評)東日本大震災のとき、大津波のあと、瓦礫に埋まり、津波に翻弄された老木が、被災の人たちの心配される中に梅の花が咲き、それを見た地域の人たちが、老木が元気に蘇つた、私たちも復興に立ち上がらねばと、語つた。このこと

を、テレビのニュースで見ましたが、作者もおそらくこのようなテレビを見て感動を覚えたものと思います。

この句を見れば、瓦礫の中、また海水を浴びた老木が、健気にも花を咲かせた情景を、誰もが目に浮かべることが出来ます。この一句で災害地の一面がよく見えてきます。

短い俳句で、被災地の実景、被災者の気持ち、生命の強さなどが、眼前に見る感じで、作者の作句力に感心しました。

過疎寂し思ひ出こいし山笑う

筒井 正子

(評)冬山の蕭条たる感じを山眠る、というのに対し、春の山の明るい感じを「山笑う」という。正子さんは、旧吾北村が現住所で過疎の進んだところなんです。現在、山峡の地はどこも過疎が進んでいます。

過疎にお住まいの作者の気持ちはよく分かります。寂しい気持ちも、山笑うときとなればまた癒やされます。過疎の山峡に住む人の、気持ちを、代弁した句です。ただし俳句では過疎は寂しい、淋しい、のほ言わなくても、分かっているのので、「過疎寂し」は、「過疎すすむ」というようにしたらと思いました。

草餅の乗りかえをして着きにけり

伊藤 たみ

(評)草餅は、蒸した蓬の葉をまぜてついた餅で、三月三日の雛祭にはよく供えられました。真青な色と蓬の香が魅力です。作者の伊藤さんは、京都在住で旧吾北村へ、ご出身とのことですが、お節句に故郷から送られてきたのでしょうか。草餅がどの方法で到来受領したかは分かりませんが、宅急便か郵便小包でしょう。か。どの便にせよ、京都までには、車の積み替えがあつたことでしょう。節句の

ころには、草餅と聞けば郷愁を感じます。遠い故郷から草餅を送り届けられたらどんなにか、嬉しいことでしょう。

ひらがなもカタカナも書け春を待つ 岡本とも子

震災の上空駆ける鯉幟

森岡 照月

黙々とすすむ独りの根深汁

片岡 包女

神の火を操る不遜春の地震

大川 節弥

足腰の加齢に気付く蔵狩り

竹崎 光子

捨てられし畑に三極明かりかな

川村 博子

子雀の転ぶに似たり跳び歩き

岡村 嘉夫

夕桜だあれも居ない滑り台

津田 久美

花三分蔵の白壁影置かず

友草 水月

目借時水琴窟は電子音

井上 郁子

ものの芽や廃校という四面楚歌

松尾満津於

水底の藻の色づいて水温む

竹崎たかひろ

本流に入りて急がぬ春の川

間 浩太

次 題 「当季雑詠」五句
締め切り 毎月五日

投句先

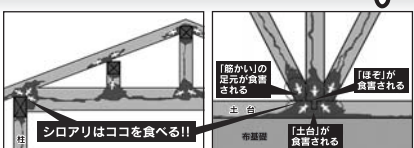
社会教育課

吾北教育事務所

いの町 3597
893-2012
上八川甲 2010
867-2133

有料広告

JA全農こうち指定 命の鍵を握っているのはシロアリです。



地震の際、シロアリ被害を受けた建物は倒壊の危険が増し、人命が失われる恐れがあります。
5年ごとに継続的なシロアリ防除を。
駆除・予防には最新式のベイト工法をお勧めいたします。
維持管理型ベイト工法 環境にやさしい新時代のシロアリ駆除システム

白蟻被害を
巣から断つ!!

シロアリに
喰われて
失業者



確実なシロアリ防除は60年以上の実績と信頼ある当社へ

友清白蟻 検索 クリック!!

株式会社友清白蟻 ■高知支店 高知市前里70番地3
TEL 088-824-1501 FAX 088-822-0733